

平成 30 年度 全国研修担当者セミナー報告	研修指導課課長	横森伸司
	研修指導課主幹・指導主事	野崎哲司

1 研修会の目的

各都道府県の教育委員会が策定した指標等について、全国を俯瞰し、情報を共有するとともに、その特色を分析し、「学び続ける教員像」の具現化に向けた今後の取り組みを考える上での基礎資料を得る。

2 受講対象者

都道府県、指定都市、中核市の教員研修派遣担当者、教育委員会および研修センター等の教員研修担当指導主事等及び教職大学院関係者

3 日 程

平成30年4月19日（木）～4月20日（金）

4 会 場

教職員支援機構つくば中央研修センター

5 概 要

本年は全ての都道府県で指標を作り、ポスターセッションの形で発表が行われた。全体的に見ても、山梨は優れていると思われる。成果物の内容はもとより、作業の進み具合、議論の積み重ね等、どれをとっても全ての都道府県より一歩先を歩いているという感じがあった。

①指標の「文章版」の効果

指標の頭の部分に、「文章版」をつけている県はほとんどなかった。そのため「何のために指標を作ったのか」というスタート地点が無いので、単に「枠を埋めるという作業」を行ったという感じのものが多かった。

②一覧表の見やすさ

育成協議会でご示唆いただいた「やまなしらしさ」、つまり分かりやすさの部分である。ポスターセッションで、大会場に全ての都道府県の一覧表が張り出されると、文字どおり一目瞭然であった。文字数の少なさ、黄色いハイライトなど、全体発表の場でも高い評価をいただいた。

③進捗状況

最終的な指標の策定が、2月、3月にずれ込んだところが大半であった。12月以前に策定した都道府県も、研修自体に手をつける所まで行っていなかった。山梨は、並行作業で研修にも手をつけたので、ここでも一歩前を歩いていると思われる。

④議論の深まり

今後の課題として常に、「この指標をどうやって使われるものにするのか」ということが話題となった。

管理職研修を行い、校長面談の補助に使ってもらう位しかどこでもアイデアが出てきていなかった。本県では、OPPAによる自己評価・自己動機付けまで議論を進めている。グループ討議でその話をしてみても、研修履歴の蓄積までは考えている県はあるが、OPPAによる自己評価による動機付けまでは至っていないとのことであった。

⑤ガイドブック作成の必要性

いくつかの都道府県では、「指標って何?」「指標の見方」「指標の使い方」等の内容のガイドブックを作成しているところがあった。本県でも、試作品までは作ったが、予算や作業日程等の関係から作成できなかった。やはりガイドブックがあった方が「指標を使われるものにする」ためには有効だと考えられる。

⑥この後の課題について

本セミナーであげられた今後の主な課題は、指標を改善するための評価方法についてであった。指標自体が有効なものであるのかどうかの評価基準を作ることが難しいことが大きな原因であるといえる。

6 研修成果の活用について

所内・庁内で上記の点について議論を進め、児童生徒の育成につながる教員の資質向上を目指していきたい。